

# 一つひとつの出会いに感謝し、仲間と共に心を込めた仕事を続ける

『Dearly Act Company』は鉄筋工事を主体に、建設業全般を手掛けている企業だ。林社長は長年、鉄筋工事業界を歩んできた人物。これまで培ってきた技術力や人脈を活かして、着実に事業を成長させている。本日はタレントの新山千春さんが同社を訪問。さらなる発展を目指し、仲間と共に誠実な仕事を続ける社長にインタビューを行った。

## 家計を支えるべく建設業界へ適性を見出し独立を果たす

—林社長の歩みからお聞かせ下さい。  
兵庫県尼崎市出身です。少年時代から野球に打ち込み、甲子園を目指して愛知県の高校に進学しました。当時から社会人になっても野球を続けたいと考えていたんですが、父が病気で他界しまして……。私には弟が2人いるので、「野球を続けている場合ではない」と、高校卒

業後は建設会社で働き始めました。—ご家族の生活を支えるために、社会に出られたのですね。建設業界を選ばれたのは、何か理由が？

当時、建設業界は勢いがあったので、より高い収入が得られましたし、私自身、身体を動かすことが好きだったので選んだんですよ。最初は知人の建設会社にお世話になり、その後、別の建設会社の経営者に「専門職として鉄筋工事に携わって見ないか？」とお声掛けいただいたので、そ

ちらに移りました。元々ものづくりが好きだったこともあって、鉄筋工事はもちろん、建設業界のどんな仕事も面白く、どんどん打ち込んでいきました。そうして7年間修業を続け、一通りの仕事を一人でこなせるようになったのが、25歳ごろのことですね。

—そうして独立に踏み切られたのでしょうか。

元々独立は考えていなかったんですよ。というのも、勤務先の社長が私を育

代表取締役

## 林 大輔

兵庫県尼崎市出身。少年時代から野球を続け、高校卒業後は建設会社で働き始めた。鉄筋工事の職人として数多くの現場を経験する中で、勤務先が吸収合併されたことを機に独立。多くの人々に支えられながら、仲間と共に高品質な仕事を納め続け、着実に事業を成長させてきた。異業種への進出にも意欲を見せるなど、さらなる躍進が期待されている。

一心を大切に活動する仲間が集う企業を目指して—  
**株式会社 Dearly Act Company**  
兵庫県尼崎市若王寺3丁目10番33号



## 自分の道を切り拓くということ

奥様や子どもたちなど、大切な家族の存在も日々仕事に向き合う原動力になっていると語る林社長。生き活きた言動からは、公私共に充実していることが窺えた。ただ、事業は順調ながらも、社長としては『Dearly Act Company』の二代目を子どもたちに継いでもらいたいという気持ちはないのだという。

ゲストインタビューの新山千春さんがその理由を問うと、「子どもたちには、自分で自分の道を切り拓いてもらいたいんです」と社長。「それに親の会社を引き継

ぐと『守らなければいけない』というプレッシャーにもつながりかねません。ですから『継ぎたい』と言っても、独立を勧めます。それが本人のためですからね」ときっぱりと語ってくれた。

社長自身、修業を経て、苦労も重ねながら一代でここまで築いてきたのだ。父親として、また先輩経営者として、子どもたちを大切に思うからこそその選択なのだろう。その大きな背中を見て育つ子どもたちは、きっと社長の思いを汲み取り、自分だけの道を見つけるはずだ。

て下さったので、その社長のもとでずっと働きたいという思いがありました。ですが、景況の悪化により勤務先が吸収合併されることに決まったんです。そのまま残って働き続ける道もありましたが、私としては社長のもとで働けないなら意味がないと感じ、独立に踏み切りました。それが2006年のことです。—社長はとてもし理堅くいらっしゃいますね。

## 直向きな努力で信頼を集める企業に新たな挑戦にも意欲を燃やす

—お仕事はどのように獲得されていったのですか。

独立後、お付き合いのあった方々のもとへご挨拶に伺ったところ、「独立したなら、うちの仕事を手伝ってくれないか」とお声掛けいただいたんですよ。そのため創業時から仕事に困ることはなく、本当にありがたかったです。また、鉄筋工事と言いますと、資材の用意が大変なんですけど、経営を続ける中で少しずつ資材会社様とのつながりができていき、自社で資材の用意から施工までを一貫して手掛けられる体制が整っていきました。今

では社員も10名（現時点）に増え、人手が足りない時には協力会社にサポートしてもらう形で、鉄筋工事をメインに解体工事など建設業全般を手掛けています。—仲間を増やししながら、事業を拡大してこられたのですね。お話ししても社長は「頼れる経営者」という印象で、社員の方々もきっと社長を頼りにされていると思います。

私も社員のことは家族同然だと考えていますから、社員も同じように思ってくれていれば嬉しいですね。仕事においては、「お金ではなく、仕事を追いかける」—つまり目先の利益に囚われるのではなく、どんな仕事も断らないスタンスで取り組むことを大切にしています。今、当社で活躍してくれている人材は、そのことをきちんと理解して現場に臨んでくれており、私もとても信頼しています。—さらなる成長を目指して、心一つに努力を続けていらっしゃるのですね。社長が成功を掴まれたのも納得です。

いえいえ。私は人に恵まれたのだと思います。ここまで続けることができ、法人化も果たせたのは、取引先様や社員など支えて下さっている周囲の方々のおかげですから、日々感謝の気持ちを忘れず、

これからも歩んでいたいと思います。—私も応援しています！ お話は尽きませんが、最後に今後の展望をお聞かせ下さい。

今はとにかく目の前のことに一生懸命取り組んでいき、その結果として仕事や社員が増えていくことが理想です。そうして当社に関わる全ての方々に幸せできればと思っています。また、最終的には不動産業界や、介護業界にも進出したいと考えています。

—なぜ介護に着目されたのでしょうか。

私自身、そろそろ親の介護を意識する年齢になりましたが、社会全体としては依然、介護離職や介護人材の不足が問題になっています。当社も介護業界に進出することで、そうした問題を緩和する一助になりたいんです。当社の社員には介護畑出身者や、宅地建物取引士の資格を持っている者がいるので、こういった優れた人材の力を借りながら、ぜひ挑戦してみたいですね。

(取材/2021年4月)

## After the Interview 新山 千春

「成功されている経営者の方々は『人に助けられた、人に恵まれた』とおっしゃる方が多い印象を受けます。林社長も「人生のターニングポイントで助けて下さる方や教えて下さる方が現れ、苦しい状況から救っていただいたことが何度もありました」と語っておられました。それは感謝を忘れない社長の人柄やご人徳あってのことだと思います。これからもその姿勢を大切に事業を続けていって下さいね」

